

新型コロナという巨大迷路

2020年3月20日発行の『60分でわかる！新型コロナウィルス完全対策』、という本を買って求めた。「新型コロナウィルスはどのように感染するか」、「効果的にウィルスから身を守る方法は」、「感染を遠ざける知識と予防法」などなど。驚くことに、半年もたない7月に出版された本では全く異なる専門家の説が主流になっていた。目に見えないわからない恐怖によって、身の回りの当たり前の毎日が阻まれ始めた。世界の祭典オリンピックは延期。日本中の観光地に溢れていた外国人観光客の姿が消えた。

観光と言えば、今考えると奇跡のように思えるが、昨年の5月から6月にかけて、スウェーデン在住の昔の教え子に招待され、共通の友人であるアメリカ人夫妻と一緒に約10日間北欧スウェーデン、デンマークを旅することができた。今年の2月、そのスウェーデンの教え子が現地の学校の生徒を引率して、忍野八海に来ているという電話があった。世界遺産になった富士山の近くで暮らしていることを自慢して、「我が家の裏庭はきれいでしょ」。返事は「お宅の裏庭は中国人観光客で身動きがとれないよ！」。

昨年12月に、その中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウィルスが世界各地に拡散し、日本国内でも73人の感染者が確認され死者も出ているというニュースが流れた。横浜港に停泊している豪華客船、ダイヤモンド・プリンセス号から感染者が毎日救急車で病院に運び込まれていく。救急隊員、医者、看護師など医療従事者が完全防備した異様な様相、なぜか隠されている病院名。なんだか分からないが、大変な事態が世界中で、そしてこの日本で起きているという恐怖感。

3月2日、突然安倍首相が専門家の判断を仰いだり、国会での協議もしないで、全国の小中高校、特殊学校等の一斉休校を命じた。「37.5℃以上の発熱が4日以上続いたら、帰国者・接触者相談センターへ」、などという放送がテレビに流れ始めた3月29日、多くの日本人から愛され茶の間の人

NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司

気者だった志村けんさんが感染し亡くなられた。この時初めて、得体のしれない不安と恐怖が日本中に走った。

毎日のように新型コロナウィルスに関する新しい情報が入ってくるが、何を信じていいのかわからない。3月出版の本にはコロナウィルスの感染経路は「飛沫」と「接触」となっていたのに、7月にはWHOが「密集した換気の悪い空間で、空気感染が起きた可能性は否定出来ない」と、発表した。世界中の国々の感染者数と死亡者数が毎日のトップニュースとなった。

「科学先進国」と言われるアメリカは、トランプ大統領の非科学的な発言に振り回され、11月1日には新規感染が10万人を超え、1日の感染数として過去最高を更新した。感染者、死者の数で世界NO.1のアメリカでは、トランプ政権が新型コロナウィルス対策をすでに諦めているとさえ言える。そんな矢先、昨年スウェーデンと一緒に旅した80代の友人夫妻がそのコロナウィルスに感染したという知らせが来た。Facebookの上なので、詳しい説明はないが、回復には1年以上かかるだろう、祈りの中で覚えてくれるようにと。

国家を導く指導者によって国民の命が守られたり損なわれたりする。ニュージーランドの女性首相、ジャシンダ・アーダーン(40歳)は国民の協力を得てコロナウィルスに打ち勝ったことを宣言し、国民に感謝した。昨年旅したスウェーデンはEU諸国のようなロックダウンをせずに、集団免疫政策を取りほぼ成功したと報じられている。しかし、現地に住む卒業生の話では、国が選んだテグネル氏という国家疫学者の教えを為政者や国民が信じて従っているからだそうだ。福祉国家らしく、弱者の立場に立って個人の人権を守ることが根本にあるようだ。

10月30日朝刊のトップ記事は「国内感染10万人超」。大都市を中心に微増傾向は続く。国がしっかりした対策を取らないと、感染者や死者が欧州やアメリカのように増加する。先の見えない巨大迷路だ。

2020年度前半の主な活動実績

2020年4月～2020年9月 人数は延べ数

食料配布(炊出しに替えて)	508名(21回)	緊急一時宿泊(ライフ荘)	225泊(23名)
健康相談	422名(44回)	生活保護申請	11名(受給実績11名)
路上生活者面談	80名(76回)	就労相談、就労サポート	118名(就労実績9名)
生活保護・年金受給者面談	77名(51回)	見守りパトロール	79名(638)


特集 コロナ禍

コロナ禍の生活困窮者への影響

新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い、生活の基盤を失ってやまなライフサポートに助けを求めてこられた方がいます。以下その一部を紹介します。

皆さん、コロナ影響による失業ですが、共通点として 30～50

代の働き盛りであるにも関わらず、雇用弱者と言われる非正規雇用(アルバイト、派遣等)や独立事業主の方々です。コロナ禍はまさしく雇用弱者を直撃したと言っても過言ではないでしょう。

	時期	経緯	支援内容、結果
Aさん (52歳男性)	2020年 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関係のインストラクターをしていたが、コロナで利用者が集まらず職を失い収入がなくなった。家賃滞納しており追い出されそうになっている。 ・1月に交通事故を起こしたが、うつ病に罹っていて処理対応ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護申請、家賃値下げ交渉、法テラス利用等の支援を行った。 ・現在は知人の紹介でパートでの仕事を開始した。法テラス利用で交通事故の処理も進んだ。うつ病改善すればフルタイムで働き生活保護脱却の意向。
Bさん (51歳男性)	2020年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の飲食店で住込みで働いていたが、コロナ影響で店が廃業し、住まいと仕事を同時に失った。独立事業主として働いていたため雇用保険もなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフ荘を利用してもらい衣食住の提供を行った。就労支援したが本人希望の調理関係に就労できず、一旦は生活保護を受給した。 ・現在は海外のホテル(調理)への就職が決まり渡航した。
Cさん (37歳男性)	2020年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣で就労していたがコロナでの仕事減を理由に派遣切りにあった。 ・生活費とアパート代がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会のコロナ緊急貸付(20万円)の申込支援を行った。 ・住居確保給付金(アパート家賃の給付)の申請支援を行った。 ・現在は派遣会社に採用が決まり就労している。
			
Dさん (45歳男性)	2020年 6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットカフェを利用しながらコンビニでのアルバイトや運転代行をしてきたが、コロナで代行の仕事がなくなり、収入がなくなった。ネットカフェも閉鎖され寝るところがなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフ荘を利用してもらい衣食住の提供を行った。 ・ワークプラザ甲府と共同で就労支援し、県外企業への就職が決まった。
Eさん (57歳男性)	2020年 8月	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年失業しホームレス状態だったが、当法人が就労支援し、一度は石和のホテルで働いていた。 ・しかしコロナ影響によるホテルの業績不振と本人の健康上の理由で再び失業し寮を追い出された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護申請やアパート確保、家財提供などの支援を行った。 ・本人の就労意欲が高いため、健康回復後の就労支援を予定している。

炊出しの現状

2008年12月から毎週木曜日に行っている炊出しは累計500回を超え、やまなしライフサポートの原点とも言える活動ですが、コロナ禍の影響により現在は中断しています。

新型コロナ感染症予防のため、本年2月27日より炊出しを中止し、おにぎり配布に切り替えました。4月2日までおにぎり配布を実施しましたが、その後の非常事態宣言発令を受けおにぎり配布も中止しました。

5月7日からは炊出しに替えて食料配布を行っています。毎週木曜日14時～16時に甲府市中央2丁目の炊出し会場にて、お米、レトルトカレー、フードバンク山梨からの提供品(缶コーヒー、アルファ米、菓子等)などを配布しています。平均25名程度の方が食料の受取りに来られています。

来場者の皆さんからは「いつになったら炊出しを始めてくれるでえ?」とよく質問されます。この期待感から、これまでの炊出しが単に食事提供の場のみでなく、居場所、交流の場でもあったことがよくわかります。また、調理ボランティアの方々からも再開時期の問合せをいただいております。一日も早いコロナ禍の終息を願わずにはられません。



配布食料の一例

生活困窮者の健康サポート活動

やまなしライフサポートでは、専任看護師が健康相談のための巡回を行っています。特に今の時期は新型コロナ感染症予防のための相談や啓発に力を入れています。

上記の食料配布会場では、換気の良い駐車場の軒下を利用し来場者全員の検温を行っています。また来場者にはマスク着用と手指消毒をお願いし、マスクの汚れている人、予備マスクの少ない人にはマスクを配布しています。このマスクは甲府市社会福祉協議会や甲府共立病院等の団体や個人から寄贈されたものを使用しています。また健康状態のヒアリングも行い、必要に応じて血圧のチェックも行っています。

食料配布会場に来られない高齢者や遠方の方には、看護師が訪問して健康確認を行っています。コロナ感染予防のため、室内には入らず玄関先での対応となりますが、生活状況確認のため室内に入る際には窓と玄関を開放するようにしています。また会話の際には、日常生活で三密を避けることの大切さやマスク着用、手指消毒の有用性なども発信しています。



検温の様子

【看護師より】

私たちが関わる人々は、元々地域との交流が少なく、外出先も限られており図書館、大型店舗、公共施設等に居場所を求めている方々です。外出機会が減り、体力の低下や精神面への影響が心配となります。今回のコロナ禍をきっかけに、共に生きていく仲間として痛みと喜びを分かち合おうとする意識が広がるといいなと思います。

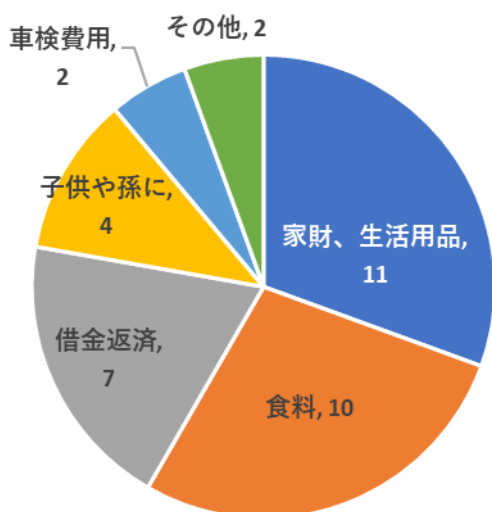
当法人の感染症予防策

相談サロンを訪れる方にはマスク着用、手指消毒、検温をお願いし、換気のため相談室の窓を開放しています。また、必要に応じて専任看護師が健康状態の確認を行い、医療機関受診のサポートも行っています。

緊急一時宿泊施設(ライフ荘)では、居室ごとに体温計、手指消毒液を用意し、記録表への記入をお願いしています。食事は、従来は食堂に受取りに行き居室で食べていただいていたのですが、現在は利用者相互の接触を避けるため、施設側が居室前まで届ける方法に変更しました。

給付金 10 万円の使途

特別定額給付金(10万円)の使途について、炊出し会場に来られた方 36 名に伺いました。(数字は人数)



・使い道で一番多かったのは家財や生活用品で、家電製品(炊飯器、冷蔵庫)や家具、情報機器(スマホ、パソコン)や自転車などがありました。

・食料関係が 2 番目で、税金やスマホ代の滞納、知人からの借金の返済に充てたのが 3 番目でした。

・ギャンブルに使ったのは 1 名のみで、皆さん有効に使われたと言えるのではないのでしょうか。

・使途を尋ねた方の中に辞退したという 60 代男性がおられました。「私は定期的に医者にかかって税金を使わせてもらっている。今回の 10 万円は困っている人や子どもに使ってほしいと考えた。」とのことでした。

ボランティアさん募集

当 NPO の活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問合せください。

1. 炊出しボランティア

(炊出しは現在休止中のため、再開次第お知らせします)

- ・毎週木曜日 午後 2 時～5 時(一部でも可)
カトリック甲府教会にて(甲府市中央 2-7-10)
- ・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。
- ・マスク、エプロン、三角巾をご準備ください。



炊出しメニューの例
カレーライス、みそ汁、ちくわと大根の煮物、ゆで卵、野菜サラダ、漬物他

2. 見守りパトロール

- ・隔月第 4 日曜日 午後 2 時～4 時 30 分頃 カトリック甲府教会集合
(8 月、12 月は夜間パトロールとなります。詳細は別途お問い合わせください。)
- ・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

物品のご寄付を募っています

家を失った方が新たにアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしく願います。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
電気ポット、自転車、カーテン、布団

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

正会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権有り)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	年会費 個人 3,000 円 団体 5,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。